

愛知県環境影響評価審査会 会議録

1 日時 2024年（令和6年）1月22日（月）午後1時から午後1時30分まで

2 場所 愛知県庁本庁舎 6階 正庁

3 議事

(1) (仮称) あつみ第二風力発電事業 環境影響評価準備書について

4 出席者

(1) 委員

中山会長、佐野部会長、大石委員、渡邊委員

【オンライン出席】

阿部委員、市野委員、伊藤委員、岡村委員、長田委員、小野委員、
神谷委員、北村委員、須山委員、塚田委員、内藤委員、中野委員、
橋本委員、廣岡委員、横田委員、義家委員、吉永委員

(以上21名)

(2) 事務局

環境局：

川村環境局長、近藤技監

環境局環境政策部環境活動推進課：

足立課長、鈴木担当課長、高橋課長補佐、猿渡主査、渥美主査、大島主任

(以上8名)

(3) 事業者等

7名

5 傍聴人

1名

6 会議内容

(1) 開会

・会議録の署名について、中山会長が岡村委員と北村委員を指名した。

(2) 議事

(仮称) あつみ第二風力発電事業 環境影響評価準備書について

- ・資料2について、佐野部会長から説明があった。
- ・中山会長が会議の非公開について委員に諮り、希少な動植物の位置情報の審議に限り、会議を非公開とすることとした。

<質疑応答>

【中山会長】資料2の部会報告について意見はないため、このまま審査会の答申としてよろしいか。

(委員から意見等はなし)

【中山会長】異議なしとされたため、部会報告の内容をそのまま審査会から知事への答申とする。

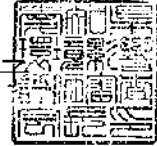
- ・ 資料2の「(仮称) あつみ第二風力発電事業 環境影響評価準備書について(報告)」を、そのまま審査会答申とすることです承され、別紙のとおり答申した。

(3) 閉会

令和6年1月22日

愛知県知事
大村秀章殿

愛知県環境影響評価審査会
会長 中山 恵



(仮称) あつみ第二風力発電事業 環境影響評価準備書について (答申)

令和5年10月27日付け5環活第281号の諮問については、別添のとおり答申します。

(仮称) あつみ第二風力発電事業 環境影響評価準備書についての答申**はじめに**

(仮称) あつみ第二風力発電事業 環境影響評価準備書 (以下「準備書」という。) について、環境の保全の見地から慎重に検討を行った。

事業者は、以下の事項について十分に検討し、その結果を環境影響評価書 (以下「評価書」という。) に記載するとともに、評価書に記載される内容に従って環境保全に万全を期する必要がある。

1 全般的事項

- (1) 本事業の対象事業実施区域の大部分が、三河湾国立公園の第2種特別地域及び鳥獣保護区に指定されているとともに、植生自然度 10 の砂丘植生が分布する砂浜であり、重要な自然環境のまとまりの場となっていることから、本事業は、動物、植物、生態系及び景観の影響を最大限低減することが求められる。

このため、事業の実施に当たっては、専門家の助言を得ながら、準備書に記載されている環境保全措置を確実に実施することはもとより、環境保全対策に関する最善の利用可能技術の導入や工事の工程及び施工方法を工夫するなど、より一層の環境影響の低減に努めること。

- (2) 環境への影響に関して新たな事実が判明した場合等においては、必要に応じて適切な措置を講ずること。

2 騒音

- (1) 工事関係車両の主要な走行ルート沿い及び対象事業実施区域周辺に住居等が存在していることから、工事の実施に伴う騒音の影響をより一層低減するため、工事関係車両台数の低減や低騒音型の建設機械の積極的な使用等の環境保全措置を徹底すること。

- (2) 本事業の施設の稼働及び累積的な施設の稼働に伴う騒音の予測結果では、環境基準値又は「風力発電施設から発生する騒音に関する指針 (環境省、2017 年)」で定められた指針値を上回る地点があることから、本事業の施設の稼働に伴う騒音の影響をより一層低減するため、環境保全措置を徹底するとともに、必要に応じて風力発電機に搭載される低騒音モードの利用等の更なる環境保全措置を実施すること。

3 地形及び地質

風車タワーによる砂の堆積状況については、長期的な影響についての予測及び評価が行われていないことから、長期的な影響に係る考え方を明らかにすること。

4 風車の影

対象事業実施区域周辺に住居等が存在していることから、本事業の施設の稼働に伴う風車の影の影響をより一層低減するため、環境保全措置を徹底するとともに、必要に応じて風力発電機の稼働制限等の更なる環境保全措置を実施すること。

5 動物

(1) 本事業の施設の稼働によるコウモリ類及び鳥類の衝突の発生を極力低減するため、環境保全措置を徹底するとともに、必要に応じて発電時以外はブレードの回転を止めるなどの更なる環境保全措置を実施すること。

(2) 鳥類について、本事業の施設の稼働による年間予測衝突数が0.1回を超えると予測されたミサゴ、チョウゲンボウ及びヒヨドリの3種を事後調査の対象として選定している。

一方、施設の稼働による累積的な予測結果では、ハイタカ、ノスリ及びハヤブサについても、年間予測衝突数が0.1回を超えるため、事後調査の対象とすることを検討するとともに、事後調査の対象種の選定方法や考え方を明らかにすること。

(3) ハヤブサについて、現地調査では対象事業実施区域及びその周辺において営巣が確認されていないものの飛翔等の確認回数が多いことから、引き続き営巣状況の確認に努め、営巣が確認された場合は、専門家の助言を得ながら、必要に応じて環境保全措置を実施すること。

6 植物

対象事業実施区域には、ハギクソウ等の重要な種や植物群落が生育しており、植物群落については、本事業の実施により、連続的に生育している群落が分断されるおそれがある。

このため、植生の改変面積を最小限とするとともに、専門家の助言を得ながら、造成前の表土等を適切に保管及び活用して植生の回復促進に努めるなどの環境保全措置を徹底すること。

また、供用開始後に植生の回復状況を確認し、植生の回復が十分でない場合は、専門家の助言を得ながら、必要に応じて更なる環境保全措置を実施すること。

7 生態系

シロチドリについて、現地調査では対象事業実施区域内で営巣が確認されていないが、今後、営巣する可能性があることから、工事の実施前に営巣状況を確認し、営巣が確認された場合は、専門家の助言を得ながら、必要に応じて更なる環境保全措置を実施すること。

8 景観

本事業の施設の存在及び累積的な施設の存在に伴う景観の影響をより一層低減するため、風力発電施設の塗装の明度及び彩度を抑えるなどの環境保全措置を徹底すること。

9 その他

- (1) 評価書の作成に当たっては、住民等の意見に配慮するとともに、わかりやすい図書となるよう努めること。
- (2) 事業の実施に当たっては、地元への丁寧な説明等の積極的な情報発信を行うとともに、住民等からの環境に関する要望等に適切に対応すること。
- (3) インターネットの利用により公表する図書について、印刷できるようにすることや、縦覧期間後も引き続き閲覧できるようにすることなど、住民等の理解促進及び利便性の向上に努めること。

検 討 の 経 緯

年 月 日	会 議	備 考
令和5年10月27日	審 査 会	知事からの諮問 準備書の内容の検討 住民意見の概要等の検討 部会の設置及び付託
令和5年11月21日	部 会	準備書の内容の検討 関係市長意見の検討
令和5年12月19日	部 会	準備書の内容の検討 公聴会意見の検討 部会報告（案）の検討
令和6年1月22日	審 査 会	準備書の内容の検討 部会報告 答申の検討 知事への答申

愛知県環境影響評価審査会委員

阿部 順子	椛山女学園大学生生活科学部准教授
市野 良一	名古屋大学大学院工学研究科教授
伊藤 由起	名古屋市立大学大学院医学研究科准教授
○大石 弥幸	大同大学名誉教授
岡村 聖	名古屋産業大学現代ビジネス学部教授
長田 和雄	名古屋大学大学院環境学研究科教授
小野 悠	豊橋技術科学大学建築・都市システム学系准教授
片山 直美	名古屋女子大学健康科学部教授
神谷 浩二	岐阜大学工学部教授
北村 亘	東京都市大学環境学部准教授
佐野 泰之	愛知工業大学工学部教授
須山 知香	岐阜大学教育学部准教授
塚田 森生	三重大学大学院生物資源学研究科教授
内藤 久雄	金城学院大学生活環境学部教授
中野 正樹	名古屋大学大学院工学研究科教授
◎中山 恵子	中京大学経済学部教授
橋本 啓史	名城大学農学部准教授
廣岡 佳弥子	岐阜大学流域圏科学研究センター准教授
宮崎 多恵子	三重大学大学院生物資源学研究科准教授
横田 久里子	豊橋技術科学大学建築・都市システム学系准教授
義家 亮	名古屋大学大学院工学研究科准教授
吉永 美香	名城大学理工学部教授
渡邊 幹男	愛知教育大学自然科学系教授

◎会長 ○会長代理

(敬称略、五十音順)